

友林蘇岐

號一十四第

(1)



講演

青年の心得

愛知縣立農林學校校長農學士
山崎延吉先生述

右は去る二月廿五日山崎先生が西筑摩郡聯合青年會の爲講演せられしものにて我校坂田外三名の速記に係り先生の校閱を経たるものなり

只今會長さんから御紹介致されました私は隣縣の農林學校の山崎と云ふものであります。今回御當郡の青年聯合會を御開催になるについて御招待に預り其上一場の御話を申す機會を與へられたのは甚だ光榮に存じます。

私は諸君に青年の心得といふ題で自分の青年について考へて居る處を申し上げます。今日の世界の大勢は所謂日進月歩の有様で各々負けず劣らず競ふて居るのであります。

我國もその日進月歩の競争場裡に加はり列生産の上に於て特に優れてゐる。彼の國と強の伍伴に列して居る。今日列強と云へば同盟せる我々お互は心強く思ふのであります。英吉利獨乙亞米利加合衆國佛蘭西露西亞の、英吉利は永い間優秀なる爲に稍安んず五ヶ國で東洋では我日本であります。これらの意が見えた。然るに米國は非常の勢で進らの列強の今日あるは決して偶然ならず必み獨乙も亦然り。英のこれに對して如何ならずかういふことにならねばならぬ原因がある考をもつてゐるかといふに千九百八年今あります。盛なる國と衰ふる國とあります。より五年前に英にボイスカウトといふ團體が等しく列強といふ國でも益々盛になる國が出来た。換言すればこれは青年の會合で英吉利亞米利加合衆國獨乙であります。ある。この團體の目的は祖國の繁榮と隆盛これらの國には其の盛になる原因があるのこを維持し更に以上に進めようとするであります。私は機會を得ましてこれらのに於て第一條には神と君とに忠を盡す國を見てまわつた事があります。興る國に瞭であつて第一條には神と君とに忠を盡すは必ず元氣の溢るゝを認むるのであります。第二に他人を扶助すること、第三にす。特に元氣は青年の元氣に俟たねば規則を勵行すること、而して各地方の小國ならぬ。興る國に到れば青年の元氣に於て體は地方々々の狀況に則りて種々の細則を一般優れた處があるのであります。故に強設けてをりますが全國をあげて其綱領は三國の裏面には青年の元氣あり青年元氣あるヶ條の一番最後の規則を勵行することである程國は盛になる。特に英國は永く優秀のる。各團體に作られたる規則は團員が誓つ國と認められて居る。即ち國民の富に於てて勵行するのであります。故に創立日尙淺

大正二年三月二十三日印刷
大正二年三月二十五日發行

(定價三錢)

長野縣西筑摩郡福島町四〇四番地
編纂兼發行人 安井正夫
長野縣松本市本町百八拾四番地
印刷者 鬼澤忠雄
印刷所 市空交文番地
全縣所 交文番地
發行所 蘆澤書店
長野縣西筑摩郡福島町二八九番地

○岐蘇林友

目次

講演 青年の心得
論說 將に卒業せんとする三年生諸君に告ぐ
學苑 兎の害及其狩獵に就て
文苑 吊綠山居士察にて、其他詩歌俳句
雜報 學校便り、校友消息、校友會スケッチ、木曾雜俎、編輯部より、其他

友林蘇岐

號一十四第

(可認物便郵種三第)

きにかはらず其成績は非常なものであつた。ねばならぬといふことを實行してゐるに外佛蘭西に負けるやうになる。君等は何と
て一昨年の英皇戴冠式に我日本からは東伏ならぬのである。この大なる団体を指導すふか。君等は奮發せなければ祖國を如何せ
兄宮殿下がお出でになり東郷大將と乃木大將の人はボイルといふ中將で昨年日本に視察しやと云つて全國青年を激勵した人があつ
將が隨行して參られたることは諸君も御承に來ました。あの時日本の青年會を見ていた獨乙の人はこの人をフアーテルヤーンと
知の事でありませう乃木大將は此團體の活かに感したであらうか其意見を聞きたいつて今でも尊敬してゐる。フアーテルは
動振を見られて非常に喜ばれ一場の演説をく思ひました。かくの如く出來てからも間父の義である。その人の激勵の人の鞭撻
せられたといふことは當時の新聞によつてもないけれども今やその團體の働きによつてその鼓吹によりて猛烈として起れる獨乙青
傳へられました。乃木さんは本邦へかへらて將來の英國は必ず今日以上に進まねばならぬ。當時獨乙
れてから中學世界やその他の新聞雜誌に此團らぬのであります。
體のことに對して詳細のことを述べられて
我國にもかゝる團體のあつて欲しいといふ
あの若い人の考。あの若い人のやり方。
東の實行にあつてはあります。今や佛國に
次列強中の獨乙は如何。明治御維新少
もかういふ團體が出來米國にも出來た。現
し後に彼の普佛戰爭をやりました。獨逸が
今横濱に日本人ではないが外國人から出
佛蘭西にいちめられた事は永い間のこと
來たボーイスカウトがあります。英國の青
非常な屈辱を受けてをりましたが普佛戰
年が祖國の爲に作つたボーイスカウトは山
の結果佛に勝つた爲め所謂戰勝さわざが
を越え海を渡り大陸に入り日本にも來て
つて飲めよ食へよの大さわぎをやりました
れ穴といふて大きな石段をつくり大きな
の棒の欄干をつくりて觀光客が見に行け
ります。其規則は特に立派ではないのであ
其時獨逸に識者があつてかういふやうでは
敬氏が此團體のやり方を見て維新の當時
負けた佛國は非常に残念がつて所謂臥
兒島に二才と云ふ團體があつた。今でも青
薪嘗膽の有様であるから今吾等の如く氣
年を青二才といふのが其青二才の意味であ
弛んで心配である。さりとてこれを今ま
る。その二才の團體の行つた事を今日英
國で戰爭をし苦勞をした人々に君らは眞
のボーイスカウトがやつて居るので何も
變になれと要求するのは少し無理であ
つた珍らしい事ではないと云はれた。其如
ひ識者はこれを獨乙の青年に訴へて君ら
はた青年も老ひ、ヤーンも死んだが獨逸
規則はた英國の爲に青年はかくあら
今騒いで居る。この様であつたら獨乙は
の間には風の風が存續して居る一千九百

友林蘇岐

號一十四第

(3) (可認物便郵種三第)

年今年から三年前にハレー町で全國青年大
會が開かれました私はその翌年行つて大會
は見なかつたが當時發行せられたエバガ
五六葉を買つて來ましたその大會の様
聞いて見てもその青年の元氣が推しは
れます。彼等は各々家を持つて晝は家業
服して農家は農、商家は商、工業家は工
日中はあく迄も家業に従事して夜分は食
から寝るまでは時間があるからこの時充
体育をやらねばならぬと云ふので都にも
舎にも津々浦々に到る迄雨天體操場の設
ある。ごく田舎に行くと小學校の體操場
轉用して居る。八時頃から皆雨天體操場
に集つて器械體操や柔軟體操や、馬に乗
ものもあれば自轉車に乗る者もある。近頃
は飛行機の操縦もやつて居る。同じ事を
ると飽きが來るから成るべく仕事を更へ
やる。又説講の大な所では三百六十五日
通つて水泳場の大きなのも設けられて
苟も青年は晝間家業に勵んで夜遊びを
やうな事はなく雨天體操場に集合して指
者の監督の下に體育をしてゐる。これが
め仕事に耐へて不拔の精神がこの間に養
れてゐる。英國の青年團と異りやつて
仕事の上から云へば體操團とも云へる。こ
れは男子のみならず女子もやつて居る興
國の國民は健全でなくてはならぬ。健全
る國民は男子ばかりではつくりぬ。男女
揃ふて立派でなくてはならぬ。それ故獨
は男女通つてやつてゐる。これをツルン
の地に行くと只では居れぬ。大に奮勵す
くもつたのは肉の丸焼であらうが長く棒
佛蘭西に負けるやうになる。君等は何と
ふか。君等は奮發せなければ祖國を如何
やと云つて全國青年を激勵した人があ
た獨乙の人はこの人をフアーテルヤーン
いつて今でも尊敬してゐる。フアーテル
父の義である。その人の激勵の人の鞭撻
その鼓吹によりて猛烈として起れる獨乙
年の意氣は凄しいものであつた。當時獨
にはビスマークといふ宰相モルトケとい
將軍があつて聯邦の國々の若い人が團結
て國の爲といふてゐるのは他に目的が
うかとビスマーク、モルトケのやうな
大人物を驚かした。それ程であるから
當時元氣が今でも相像されるのである。
こでの主唱者ヤーンを捕縛しやうと探偵
をつけた。獨乙の西のハレーといふ町を
ザレー河が流れる。その川岸の丁度木會
の山中の如き岩山の洞穴にヤーンが一時
居た。その穴をヤーンの穴といふ。今
こゝに金文字を貼つてヤーン爺の隠
れ穴といふて大きな石段をつくり大きな
の棒の欄干をつくりて觀光客が見に行け
やうになつてゐる。併し間もなく獨乙の青
年がどこ迄も祖國の爲に働くと云ふ事
が判つてそれからビスマークやモルトケが喜
んで却つて援助したこれは明治十年頃の事
でその當時激勵せられた青年が今日の獨乙
を形つて居る當時ヤーンに激勵せられ
た青年も老ひ、ヤーンも死んだが獨逸
の間には風の風が存續して居る一千九百

様に見るは何の御馳走であらうかと思ひ、獨立を思ふて居る國と戦ふのは私の情に忍かし、價値を上げるには日本を負つて立つ日...

であらう、又日本は知識が進歩したとか、ぶ事が出来やうか。次に金力はどうか。次に金力はどうか。斯う書いてある。個條は只三つあるけれど...

國人は何共云はす大きな両手を突き出した間ではよく農産物の品評會が催される然しりますが大正時代は益々發展の時である。是れから先の青年はほんどうに使命を全う何故富を増すか何故金が出るかは此の手り手の品評會をやれやれと云つて居る白魚せんど努めねはならん。今日の青年は是でが證明して居るから手を御覽なさいと言ふの様な手ではとても良い收穫が出来るものはいかぬと言ふ氣を出して智徳の研修に勞働の實行に勵まなければならぬ。

米國人の手は大きくあります名古屋あたり現今富有な國は丁抹である人口が二百四十へ行つて外國人の手袋と帽子とを御覽なさ万で東京よりは少し多い面積は我四國よりい帽子には差異がないが手袋は非常に大きも稍々小さいが外國に輸出する卵の代丈では一層眼を大きくして諸君が如何程努力奮りませんと云ふに貴方の手は小さくも一億五千萬圓である農業本位の國であつたせたら私の手には澤山のるが貴方の手にある我内務省の地方改良の講習に出てあるならば諸君の努力も知れたものである。今隙間がありと私の手には隙間がありませぬ話に丁抹へ行つた時丁抹人と握手して手で歸らねばならぬが今後又御目にかゝる期りませんと云つた之が米國が金を増す所以抹人の手には節の間に迄豆が出来て居ると寛恕を乞ふ次第であります。(完)

論說

將に卒業せむとする 三年生諸君に告ぐ

黄鳥未だ嬌音を弄せず花唇向笑を湛ふるに 傾しと雖四山雪漸く消れて軟風既に山野を 平の春に入らむとするに當り我三年生諸君 へむとするの日に到着せり惟ふに諸君は前 途に輝ける無限の希望と光明とを認め中心 抑へがたき怡悦の情に充たさるゝものある べし學生に取りて一學校を卒業するは誠に

一樂事たるを失はず况んや諸君の殆ど總ての所なり然らば自強の道如何、他なし諸君へり天命畏るべく慎むべし太田錦城先生の 是より直ちに職を求めて實社會に入り己は飽くまでも其専門學科に興味を有し之が 語に人は白日十字街頭を走ると心得よとあ り慎獨の教、四知の戒念々怠ること勿れ、 余は諸君と同時に本校に入り來り諸君が第 二學年の第二學期頃より級主任となり諸君 と親炙すること尤も深く諸君が皆着實勤勉 にして又實に多士濟々の觀あるを喜べり即 ち諸君は能く學生たるの本分に副ひ上級生 としての尤も善き模範と風尚とを後輩に與 へたるものなり只余が不肖なる諸君に向て 何等寄與する所なかりしを恐むのみ諸君は 既に生徒時代に於て其美質を發揮せり此美 質は社會に出づる後益々其光輝を増すべき 君と袂を分つ亦遠からざるを思ひ轉情別の 情に堪へず聊か婆心を陳べて諸君の参考に 資すと云爾 (三月十一日)

一樂事たるを失はず况んや諸君の殆ど總ての所なり然らば自強の道如何、他なし諸君 是より直ちに職を求めて實社會に入り己は飽くまでも其専門學科に興味を有し之が 語に人は白日十字街頭を走ると心得よとあ り慎獨の教、四知の戒念々怠ること勿れ、 余は諸君と同時に本校に入り來り諸君が第 二學年の第二學期頃より級主任となり諸君 と親炙すること尤も深く諸君が皆着實勤勉 にして又實に多士濟々の觀あるを喜べり即 ち諸君は能く學生たるの本分に副ひ上級生 としての尤も善き模範と風尚とを後輩に與 へたるものなり只余が不肖なる諸君に向て 何等寄與する所なかりしを恐むのみ諸君は 既に生徒時代に於て其美質を發揮せり此美 質は社會に出づる後益々其光輝を増すべき 君と袂を分つ亦遠からざるを思ひ轉情別の 情に堪へず聊か婆心を陳べて諸君の参考に 資すと云爾 (三月十一日)

學術

兎の害及び其の狩獵に就て

北國の山々が美しく雪の冠を飾る前紅葉 兎は着なれた茶褐色の夏衣を脱ぎ捨て、雪 降り出した雪が消れては降り降つては消ぬ 降り出した雪が消れては降り降つては消ぬ 降り出した雪が消れては降り降つては消ぬ 降り出した雪が消れては降り降つては消ぬ

らしい眼を見張つて食物を探しに出歩くの敵たり殊に林業に對しては野生動物中尤も六十町の廣さを有し平坦にして見透しを妨

搜索獵

日本の兎獵は大抵此獵にして雉子獵などに使ふのと同く犬を用ふるも成る可く兎專的に仕込むを宜しとす而して犬は鹿獵などに

獲物が眠つて居るところを發見すると三四の時より學校に投込まる。學校にありては

天性の愚鈍父母の放任主義と相合して益々發達し爲めに學校衆に秀でず常に同級の末

文苑

吊縁山居士記

伊豫新居濱 永井 順

君は明治二十三年一月三河國東加茂郡生駒在職六年計書頗る要領を得ず鈍腕の譽高し

君は碁を打つては相手に勝ちたることなくに入り劍の山に鬼の監督の下に杉扁柏の苗洗面所が氷つてゐた始末です坐らに嵐雪の...

三月になりました 前野 春 公 誰だつたか外國の作家の作だつたと思ふ...

入 岐 蘇 獸醫學博士勝嶋幹號仙坡 水挾餘勢揮怪力 山將瘦骨待奇才...

雜報

學校便り

○兎狩へ二月に入りてより一回の降雪もな く山々の雪も瀟々消れむとし壯士轉、神肉十七條の内規とする事として...

に爾後卒業生は卒業の際林友五ヶ年間代と業務所へ就任の事に決し二月十八日福嶋...

校友會演説スケッチ

- 一、研究部 一〇八點 齋藤 梅藏 演説は奇抜であるが所説は平凡登壇先づ私
二、庶務部 一一二點 關 琴義 は此二年間演壇に立つは今日が初めてだ
三、擊劍部 九二點 市岡 新八 鳥帝國の中原 都 竹 君
四、遠足部 三二點 龜子 壽一 君の演説は議會で云へば島田三郎と云ふ
五、庭球部 五八點 後藤 貫一 所口を開けば千万言語立所に成ると云ふ
六、弓術部 八〇點 龜子 壽一 見暮今日は先づ王朝政治より戰國時代に至る變遷と群雄並び起る次第を述べてきて尾三平野にいつも大英雄の生ずる事に説き及ぼし其理由を論究し地利といふものゝ人生に偉大なる影響を與ふる事を結論して降壇あどは于度大風の一過し去つた様な心地がする

校友消息

○原四郎君は先頃來病氣静養の爲歸郷中な 小年辯士として壇に立てばテーブルと丈く...

少女の不圖した事から思ひよらぬ財寶を得るといふお伽話面白く可笑しく満場をして思はず喝采せしめた

動物的欲望を大にせよ

柳澤 止君

君の態度は中々沈着なり主意は我等が社會の中に生活して行くには大なる體力を要す故に吾々は食物に留意し身體を丈夫にし猛獸の如き體力と而して健全なる精神とを養成すべきを説かれたるが所論一々肯綮に當つた

檀獨尊者と茗荷

一年 田中 君

茗荷を食べば物忘れをすと云ふ來歴を話してある旅舎の主人が旅客の金を預つて之をせしめやうとのズルイ考から旅客に茗荷の御馳走をしたら且旅客は預けた金は忘れずに持つたが宿賃丈忘れたと云ふお寺さん其儘の話

口 齋藤 君

口に就て多方面より觀察を下し最後に悪口河説の最も悪むべきを説かれた

スキーに就て 川崎 先生

スキーの起源發達を述べられ其體育上並に實用上特に林業上必要なるを説かれ我校友會の一部となるスキーの發達を希望されて降壇

偶 感 校長 先生

都竹君の演說中尾三平野に英雄秀吉の出たといふ事に因みて先生の郷里は名倉屋であ

ること而も東都遊學中嚴父より家訓として與へられた箇條の中に豊太閤を理想の人とすべしと云へる文言あることを舉示し吾人に刺激を與へられた

編輯部より

白妙の雪消えて花の美競ふ春とは相成申候去年の春生等驚才を顧みず乏きを編輯部員に承け候よりはや既に春秋本誌の齡四十路を越ゆること一年。盛りの時代なるにも不係誌上さしたる活躍も見えず平々坦々何等の光彩も添へ得ず候ひしは之れ部員菲才の致す所誠に汗顔の至に御座候、而も幸に大過なく其責を塞ぎ得候は偏に顧問先生及校友諸君の御熱誠と校外會員諸兄の御助力との賜物と深く感佩罷在候、茲に御暇乞に際し過ぎこし方の無能を謝し併せて本誌將來の發展を請申候

編輯部員總代

坂田 勘太郎

久保田 吾良

雜誌代未納の諸君に告ぐ

卒業生諸君は岐蘇林友代として一ヶ年三十六錢校友會へ納付被下べきは豫て御案内の事と存候然るに未納者案外多く會計上頗る困難を來し候間右未納の諸君は何卒至急御送付相成度此段稟告致候

校 友 會

居所異動報告

各位中御住所御職務上等に關し御異動有

之候節は乍御手数是非御一報被下度林友發送其他につき差支ふ勘候間殊に御願申上候

校 友 會

稟 告

多年本校並に本會の爲盡瘁せられし小松先生は昨年七月熊本縣珠磨農學校へ御榮轉被成候に就ては聊同先生の功勞に酬ゆる爲記念品贈呈致度有志の諸君は左記御含みの上應分の御寄附相成度此段得貴意候也

一、御送金は振替東京一七六〇〇校長安藤時雄宛の事

一、期限は本年六月十日迄の事

二、御送金額及芳名は本誌に掲載し別に請取證は差上げざる事 以上

大正二年三月 水會山林學校々友會 各位

木會産樹實

右年御愛顧を蒙り難有奉拜謝候本年も良種多量採取致置候間陸續御用命被下度奉懇願候

木會駒ヶ根村上松

種苗販賣 蜂須賀忠四郎

投稿規約

- 一、原稿締切は毎月十五日限り
二、原稿は總て廿行十九字詰の事
三、字体は正楷明瞭を要する事